

“いいまち”つくる井町です!!

岡崎市議会議員

井町よしたかの“いいまち”ニュース

(市政レポート)

子供からお年寄りまで幸せを感じられる岡崎市を目指します!

発行：岡崎市矢作町字出口1番地 井町圭孝連絡事務所(東レ労組内) TEL:34-2514



矢作地域を流れる一級河川の矢作川と鹿乗川。両河川の流域では東海豪雨及び平成20年8月末豪雨の際、広い地域で水害に見舞われました。両河川の水害対策の強化は矢作地域に暮らす人々にとって欠かすことはできません。以下に私が市議会の場でおこなった質問のQ&Aをまとめましたので報告します。

矢作川に関するQ&A

Q 矢作川における樹木伐採の計画と実績について伺う。

A 平成21年度に策定された「矢作川水系河川整備計画」及び、「矢作川維持管理計画」において、洪水時の流下能力の確保や、良好な河川環境を保全することを目的に、計画的に実施するとされている。

次に、平成27年から令和元年度までの5か年の実績は、約11万平方メートルであり、概ね、日名橋周辺で実施している。

また、今年度については、美矢井橋上流から日名橋までの区間と、県道名古屋岡崎線の葵大橋付近の右岸左岸を合わせて、約56万平方メートルと、大規模なエリアで実施する予定と国から聞いている。

Q 今年度の堤防整備箇所について伺う。

A 矢作川の堤防整備については、平成27年9月の「鬼怒川の堤防決壊」による水害を機に国が策定した「水防災意識社会再構築ビジョン」に加え、平成30年7

月の「西日本豪雨」による甚大な浸水被害を受けたことを踏まえて策定した「防災・減災・国土強靱化のための3か年緊急対策」に基づき、現在、工事が進められている。

今年度の箇所は、まず、右岸は堤防整備としては、美矢井橋から上流の下佐々木町で約1kmと、洪水時の浸透水の円滑な排水対策として、JR東海道本線から名鉄本線の間の渡町で0.8kmを実施する予定。

次に、左岸は堤防整備としては、JR東海道本線から名鉄本線の間の八帖南町で0.6kmと、洪水時の浸透水の円滑な排水対策として、大門河川緑地下流0.4kmを実施する予定と、国から聞いている。

今後も国に対して、引き続き「水防災意識社会再構築ビジョン」に基づき、改修促進を強く要望していく。

Q 堤防を整備する反面堤防に穴をあけて巣をつくる動物が矢作川にもいるようですが、堤防に巣をつくる動物とその対策について伺う。

A 堤防に巣をつくる動物としては、一般的に、モグラやネズミなどで、近年では、特定外来種であるヌートリアが、急激な繁殖傾向にあると聞いている。

ヌートリアは、特に矢作川を始め、西日本の多くの河川で生息が確認されており、生息数の多い地域では、堤防内の土中に巣穴が造られるため、洪水時には、堤防内に水が多く含まれることとなり、結果として、堤防の安全性の低下を招く

危険性が指摘されている。

こうした事象から、国としては、現在、

日々の巡回パトロールのほか、周辺住民・利用者などからの通報を受けた場合においては、早急に調査を行い、埋めるなどの対応を迅速におこなっております。

今後、巣穴が多く発見された場合には、捕獲器などを設置し、駆除に向けた対策を進める考えであると聞いている。

7月8日 矢作橋から見た矢作川



【まとめ】

矢作川では現在、国が策定した「防災・減災・国土強靱化のための3か年緊急対策」に基づいて、河川内の樹木の伐採や堤防整備が進められています。

今年度の樹木伐採は美矢井橋上流から日名橋までの区間と、県道名古屋岡崎線の葵大橋付近。堤防整備(右岸)は、下佐々木町と渡町で行われる予定です。

私も岡崎市及び地元国会議員と協力して進捗状況をフォローします。

